

小学校4年社会科 学習指導案

授業者

1, 日時：10月5日(木) 5時間目

2, 担当学年：第4学年 12人(男子7人、女子5人)

3, 使用教材：『奈良県のくらし』日本文教出版

4, 単元「③自然災害から人々を守る (1)奈良県自然災害 大和川大水害」

5, 単元の目標

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
災害にまつわる資料の調査や話し合いを通して、地域の関係機関や人々が自然災害へ対処してきたことや、今後想定される災害に対して様々な備えをしていることなどについて理解する。	過去に県内で発生した自然災害と、それにまつわる関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動とその働きについて考え、表現することが出来る。	自然災害が自身の生活と深くかわる問題であるとの意識を持ち、自然災害への対応や備えについて意欲的に調べ、自分出来る減災や防災について考えることが出来る。

6, 教材観

本教材は、奈良県各地域の特徴に注目しながら、暮らし・文化・防災・農産業など4年生で学習する様々な学習課題を考えていくための教科書である。学習指導要領では平成29年度の改訂により、第4学年の学習対象として自分たちの県や地域を中心に扱っていく学習活動が推奨されており、今回取り扱う「自然災害」に関しても、「地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などの中から、過去に県内で発生したものを選択して取り上げる。」というように記述されている。

本単元「3. 自然災害から人々を守る」では、奈良県に過去発生してきた自然災害の資料や体験等をもとに、災害による被害を未然に防ぐための備えや、被害が発生した際の対処を基軸として、私たち民間人に出来る取り組み、地域の関係機関で行っている取り組みについて考える内容となっている。今回の指導案では特に「(1) 奈良県自然災害 大和川大水害」を用いて単元の指導計画を作成した。

奈良県は日本の他地域と比べると自然災害が比較的少ないといわれることがあるが、1959年の伊勢湾台風や1982年の大和川大水害、2011年の紀伊半島大水害など、多くの人が亡くなったり、生

活再建が困難になったりするような、大きな災害にも度々見舞われてきた歴史がある。近年温暖化をはじめとする気候変動により自然災害の脅威は更に大きくなっている傾向にあり、今後防災について考える重要性はますます大きくなっていくことが予想される。その際、先に挙げたような奈良県内の過去の大きな災害を教訓として、これからの防災について学習することには大いに価値があると考えらる。

今回の指導案では主に 1982 年の大和川大水害を中心に洪水被害、防災などについて考えていく。それまで経験したことのないような大規模な水害に見舞われた大和川流域において、どのような被害が発生し、また生活再建に向けどのような支援がなされたのかを多角的に学習していく。

6 時間目の授業では宇陀市でも大きな被害が出た「伊勢湾台風」の体験をインタビュー映像し、教材として使用する。単元の本題である「大和川大水害」の体験談ではないが、伊勢湾台風は宇陀市の災害史の中では最大級のものであり、また災害への備えや被災者支援に乏しかった時代の実態を鮮明に知ることが出来るため、より子どもたちの住む地域に根差した学習になるため取り上げた。

7. 児童観

本学級は 1 学年 1 クラスのみ、12 人で構成される、非常に小規模な学級となっている。その分同じメンバーで過ごす時間が長いことから、各児童がお互いにそれぞれの性格、特性を熟知しており、互いに助け合いながら非常に良好な人間関係を生み、自治的な教室の環境を形成している。

社会科の授業においては、多少教師からのリード、軌道修正は必要なものの、全員が積極的に授業に参加し意見を出している様子が見られる。教師⇄児童のやり取りには意欲的に参加出来ている一方で、児童同士で行うグループ学習にはまだ慣れてない児童も多く、意見交流を行う時間を設けても活動内容に集中できていなかったり、またワークシートに書いた自分の意見を言うだけにとどまったりする姿が目立った。グループ学習の際には、話し合うのに必要な声掛けや会話のやりとりを続ける方法などを確認したうえで実践することが望ましい。

他学年と比較すると、学習の際特別な配慮を必要とする児童の割合は多い傾向にあるため、全員が参加できる協働的な学習活動を展開しつつ、可能な限り個別の配慮も忘れないようにしていきたい。

8. 指導観

授業全体として、過去の災害の分析をもとに考察を重ねるという場面が多くみられるため、被害が発生した当時の写真を見て、気づいたことを意見交流するという機会をなるべく多く用意する。前半は「教師対児童」のやり取りを中心に展開するが、ある程度授業が進んだ後は積極的に児童同士の話し合いの場を設け、自主的に考察を進めることに慣れさせていく。

また、ほとんどの児童は生まれてから大きな自然災害を体験したことはない中で、普段の町のようすとどのような違いがあるのかに特に注目すると同時に、災害時の状況をより明瞭に想像できるための問いかけを多く用意していきたい。

公開授業では、宇陀市内で実際に水害の被害を経験された方へのインタビューを子どもたちに紹

介することで、より子どもたちが災害の実感がわくような授業を展開していきたい。

単元の終末では、それまで学習してきた内容をもとに、自身の生活における自然災害への備えを考え、グループごとに「防災新聞」を作成してもらう。自然災害は、その種類や住む地域によって、避難する場所が違ったりするなど、防災のための備えが大きく変わることがある。「自分がもし避難する状況になったら」という場面をなるべく具体的に考えさせ、災害別の備え方を一人ひとりが導き出せるように授業を展開したいと考える。

9. 単元の指導計画(全10時間)

回数	学習活動	学習内容
1	大単元導入	過去に奈良県内で起こった自然災害について写真を用いて分析し、様々な自然災害が起きていることを理解する。
2	大和川大水害	大和川大水害について教科書の写真を用いて分析し、水害はどのような被害をもたらすのかを理解する。
3	ひ害は支流にも	県内のどのような地域で被害が発生していたのかを分析し、大和川本流だけでなく支流でも被害が出ていたことを理解すると同時に、被害の大きい地域と小さい地域の差について考えを深める。
4	ひ害を小さくするために	復興に向けた様々な取り組みを行っている写真を、グループで話し合いながら分析することで、多方面の立場の人が被害を小さくするための支援をしていたことを理解する。
5	災害がおきたら	3年生で学習した警察や消防のはたらきを復習しながら、災害発生時県庁がどのようにして被害を減らす取り組みを行っているのかを理解する。
6	地域の人たちのようす (本時)	宇陀市榛原で実際に起こった水害の体験談を通して、災害時にどのような支援が必要かを考える。
7	災害にそなえて	県庁では災害に備え、電力会社や小売店など多くの社会組織と協力をしていることを理解する。
8	私たちに出来ること	自分たちの住む地域の中で災害時に特に危険な場所を調べたり、災害を減らすために普段から出来ることを考え、グループごとに防災新聞を作成する。
9		
10		

10. 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
地域の関係機関や人々が自然災害へ対処してきたことや、今後想定される災害に対して様々な備えをしていることなどについて理解出来ている。	過去に県内で発生した自然災害を多角的に分析するとともに、県内の関係機関の協力等に着目し、災害から人々を守る活動や生活再建のための支援について考えを深めることが出来る。	自然災害が自身の生活と深くかかわる問題であるとの意識を持ち、自然災害への対応や備えについてすすんで学習に取り組むことが出来る。

11. 本時の展開

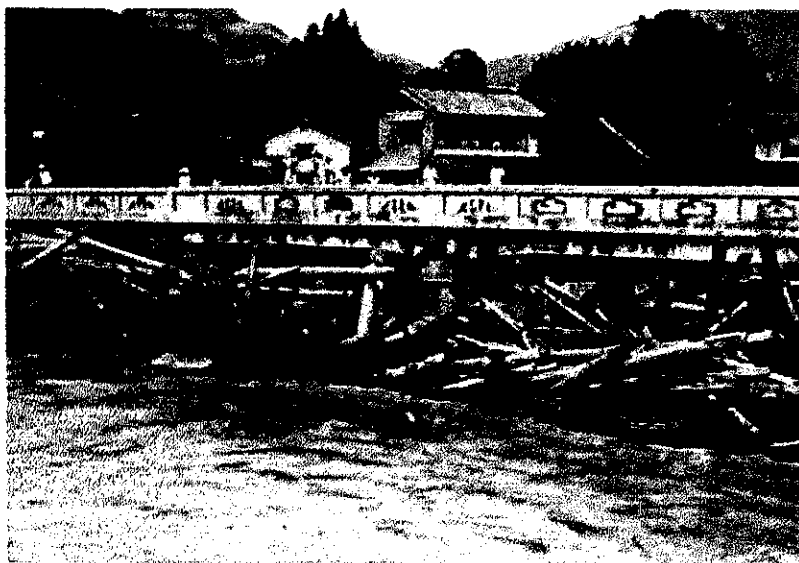
本時の目標：宇陀市で実際に起こった水害の体験談を通して、災害時にどのような支援が必要かを考えることが出来る。

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (5分)	○伊勢湾台風の写真を見ながら、発問に答える。 「気づいたことはある？」 「大和川大水害とどういう部分が似ているか？」	・本時の前後は基本的に「大和川大水害」を扱っているが、今回のみ「伊勢湾台風」という別の水害を扱うため、普段と比べて特殊な授業であることを先に明示し、児童に見通しを立てさせる。 ・水害という点では「大和川大水害」と共通しているため、これまでの授業で学んだこと、考えたことを利用することを意識させる。	・写真から状況を分析し、積極的に意見を出すことが出来る (思考力・判断力・表現力)
めあて：水害が起きたとき、どんな支援が必要かを考えよう。			
展開① (20分)	○伊勢湾台風の宇陀市内の被害の概要説明 ○田窪さんのインタビューのビデオを見ながら、ワークシートの発問に答える。 問1.「榛原では伊勢湾台風によ	・一問一答で答える児童が多い傾向にあるので、時間内になるべく多く書くように指示する。	

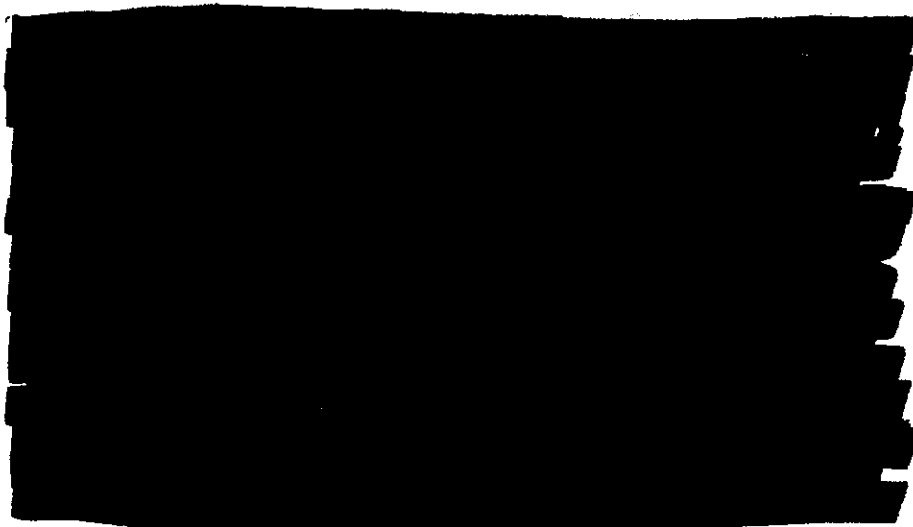
	ってどんな被害が出ていた？」 問2.「榛原に台風がやって来たとき/台風が去った後、田窪さんやはどうな行動をしていた？」 当時の被害状況・及び救援体制を確認する。	・問1, 2に関しては事実確認の部分が大きいので、問3よりは短時間で回答させる。 ・問1に対応するビデオ映像を見終わった時点で、当時の墨坂神社前の天野橋の写真、Google mapによる位置把握を行いながら見せる。 (※天野橋は伊勢湾台風が来たときに唯一残っていた鉄筋の石橋。橋の前にあるのは流れ着いた材木。当時は木製の橋が多く、その多くが台風で流されてしまった。)	
展開② (10分)	問3.「伊勢湾台風のような被害にあったとき、どんな支援が必要だろうか？」 ・宇陀市の支援物資を実際に見せる。	・意見が出にくい場合は、前回の授業で学習した警察・消防の救助を思い出してもらい、前時で学習した救助体制の学習との関連を意識させる。 ・宇陀市役所の危機管理課からお借りした、非常食、水、ベッド、仕切り、毛布を見せる。	・展開①で学習した内容から当時の状況を想像し、必要な支援について多角的に考えることが出来る(思考力・判断力・表現力)
終末 (10分)	今回の授業を通して気づいたこと、思ったことをワークシートに記入する。	・感想には、今回のめあてをふまえた上で感想を書かせる。(そのうえで自由記述も許可する) ・感想を書き始める際、参考資料として当時の新聞を配布する。	自然災害が自身の生活と深くかかわる問題であるとの意識を持ち、本時の学習のふりかえりが出来ている。



(伊勢湾台風の被害の様子。二階から水を見つめる被災者)



(橋げたに流木が引っかった天野橋 奈良新聞社提供)



(学校名と位置を
示す地図のため省略)

10/2

☆めあて

水害が起こったとき、どんな支援が必要かを考えよう

支援……[ほかの人がしたいことを手助けすること。]

※伊勢湾(いせわん)台風 ……1959年 9月26日～27日にかけて日本をおそった台風。高潮(たかしお)・強風・川のはんらんなどが多くの場所で起こり、死者・ゆくえ不明者は合計5098名、負傷者は38921名にのぼった。

問1.「宇陀市では、伊勢湾台風によってどんなひ害が出ていた？」

(予想される回答)

- ・川があふれた
- ・橋が壊れた
- ・強い風が吹いた



問2.「宇陀市がひ害にあったとき/ひ害にあったあと、田窪^{たくぼ}さんや町の人たちはどんな行動をしていた？」

- ・家の扉をおさえていた。
- ・土砂をかきだしていた。

問3.「伊勢湾台風のようなひ害にあったとき、どんな支援が必要になるだろう？」

- ・食べ物を届けてほしい
- ・ゆっくり寝られる場所が欲しい
- ・遊ぶものが欲しい
- ・家を掃除してほしい

☆今日学習して、気づいたことや感じたことを書こう。